

アクティブ・ラーニングを用いた地域課題の解決に向けた企画提案 ～ 次世代リーダーの育成をめざした「ぎふ立志リーダー養成塾」～

山内茂樹¹⁾・堀場敦子¹⁾・猪俣美月¹⁾・益川浩一²⁾

¹⁾ 岐阜県環境生活部私学振興・青少年課

²⁾ 岐阜大学地域協学センター

1. 「ぎふ立志リーダー養成塾」開催の経緯

平成16年度「岐阜県教育改革研究会」¹⁾から県に対する「青年前期にある中学生を対象に、21世紀を担い得る次世代リーダーを養成することが望ましい。」旨の提言を受けて、研究会と県による実行委員会²⁾を立ち上げ、平成17年度に第1回目の「ぎふ立志リーダー養成塾」（以下「リーダー養成塾」）を開催した。平成30年度は第14回目となる。

これまでに岐阜県知事や（一社）岐阜県経済同友会筆頭代表幹事（元職を含む）が講師を務め、県内の中学生330名がリーダー養成塾に参加した。

2. 「ぎふ立志リーダー養成塾」の概要

(1) 開催趣旨

少子高齢化、情報化、国際化の進展など社会経済情勢は大きく変動し、時代の先行きが不透明な時代において、新たな国の将来を創造するリーダーが必要とされている。また、リーダーには、ビジョン・メイキング、ネットワーク形成力、倫理的・道徳的な人格、自己表現力などの資質が求められる。

このリーダー養成塾では、感受性が豊かな青年前期にあり、また、学校においてリーダー的役割を担っている中学生が、美しく豊かな自然環境の中、優れたアドバイザーの指導のもと、高い志をもった仲間とともに、「考え、チャレンジし、まとめあげ、発信する」協同作業を通して、「目的のために、責任ある決断をし、人をまとめ引っ張っていく力」を育成することを目的としている。

(2) 開催概要（平成30年度）

- ・参加対象：県内の中学校において、生徒会長、副会長、役員、学級代表及び議員として活動する2年生、3年生（経験者を含む）24名（男女同数）
- ・開催日程：8月中旬の4日間（平成30年度は8月15日～8月18日）
- ・開催場所：トヨタ白川郷自然学校（白川村馬狩223）
- ・塾長：中村 正 氏 【（一社）岐阜県経済同友会筆頭代表幹事】
- ・副塾長：益川 浩一 氏 【岐阜大学地域協学センター長】
- ・協賛：（一社）岐阜県経済同友会、（一社）岐阜県経営者協会、岐阜県商工会議所連合会、岐阜県中小企業団体中央会、岐阜県商工会連合会
- ・その他：運営補助として、卒塾生である学生スタッフ（大学生）が参加している。

3. 「ぎふ立志リーダー養成塾」のプログラム

(1) これまで実施したプログラム

リーダー養成塾では、リーダーとして必要な資質や能力の育成に向けたプログラムを実施してきた。大きく分けると以下の5つのプログラムに分けられる。

表1. プログラムの内容一覧 （出所：筆者作成）

プログラム	内容、講師、テーマ等
グループワーク	チームビルディング、リーダーシップに関するグループ活動、寸劇制作
講義	塾長、副塾長、トヨタ白川郷自然学校長、(株)美ら地球代表取締役、岐阜県副知事、岐阜県環境生活部長、岐阜県教育委員会義務教育総括監 等
体験活動	森の手入れ作業、そばづくり、間伐材等を活用した創作活動、白川郷見学
課題解決学習	岐阜県知事にチャレンジ、教育課題にチャレンジ、社会問題にチャレンジ
ディベート	格差社会問題、多文化共生問題、ごみ処理の有料化、中学生の携帯所有

(2) これまでのプログラムの課題

これまでのプログラムは、リーダーとしてあるべき姿の理解や、リーダーとして必要な能力の開発が重点であり、リーダー養成塾終了後に各学校や地域などの活動につながりにくい面があった。また、リーダー育成の効果が多くの中学生や学校、地域で共有されないことから、効果が広まらないことが課題としてあった。さらに学校教育の現場においては、総合的な学習で地域について学び、地域に対する活動を行っていることが多いが、これまでの活動の踏襲によるマンネリ化、活動と地域の実態とのずれや活動に対する児童・生徒の願いが希薄であるなどの課題があり、学校から地域に働きかける活動のあり方を再度見直す時期にもきている。

そこで、将来のリーダーとなることはもとより、地域課題に対して、生徒会等の各団体の活動につながるプログラムを実施することによりリーダー育成を行うとともに、教育現場や社会教育の場を活用して、その効果の広がりをめざした。具体的には、地域貢献ができるためのプログラムの充実を図るため「世界遺産に学ぶ（白川郷の見学）」に加えて、「地域課題に対する企画提案」を実施することとした。「地域課題に対する企画提案」は地域課題の把握・課題解決に向けた企画検討・企画立案・提案準備・提案発表を一連の流れとし、塾生の主体的な取り組みを大切にしたいと考えた。また、企画提案には正解がないため、グループごとにテーマを設定して話し合いの視点を焦点化し、対話的な活動を充実させることでよりよい提案を目指して協同活動ができるように、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れたプログラムにしたいと考えた。

(3) 地域貢献をテーマとしたプログラムへの展開

プログラムの充実にあたり一番懸念したことは、リーダー養成塾には県内各地域から中学生が参加するため、どの地域を対象にしてプログラムを仕組むかということであった。当初は各地域の課題を持ち寄ってグループ討議し、一つの地域に限定して課題解決に向けた企画を提案することを考えた。しかし、選ばれなかった塾生にとっては知識や情報のない地域について考えることは非常に難しく、そのことにより活動への意欲が低下し、さらには事後活動にもつながりにくいと考えた。そこで、第1回からの開催場所である「白川村」を共通のテーマとし、白川村の現状や課題について調べ、課題解決に向けた企画を白川村に提案することとした。白川村をテーマとすることで、次のようなメリットがある。

- ①自分の地域と違う地域の実情や活動を知ることにより、自分たちの地域を客観的に見ることができ、改めて自分の地域の良さや課題が見えてくる。
- ②白川村は、世界遺産である合掌造りの保存活動を通して、地域密着のローカルな活動と、外国の観光客を受け入れるなどグローバルな視点での活動を行っている地域であり、それらを同時に学ぶことができ、広い視野から地域での活動につなげることが可能である。

(4) 地域課題に対する企画提案

このプログラムを実施するにあたり、配慮したことは次の2点である。

- ①中学生らしい発想を大切にしつつ、実現不可能な夢物語ではなく、ある程度実現可能で、白川村の皆さんにとって有益となるような企画提案にすること。
- ②限られた時間の中で仲間と協同して取り組み、リーダーとして必要な力を付けることができる内容にすること。

①については、白川村第六次総合計画にある白川村としてめざす姿や数値目標を用いて、共通のゴールを設定した。また、中学生らしい自由な発想も十分に発揮してほしいと考え、予算や人員等は考慮せずに企画提案をするようにした。

②については、本来は白川村の現状について各自が調査し、課題等をグループで討議してテーマを設定していくことが望ましいのだが、リーダー養成塾の時間は限られているため、事前にグループごとにテーマを設定した。テーマを焦点化することで、塾生が事前にテーマに沿った現状や課題について具体的に調査をし、スムーズに企画提案に取り組むことができるようにした。また、企画提案の方法についても、模造紙の使用、タブレットを使用したプレゼンテーション、寸劇等各グループで効果的な方法を考えることとした。

さらに、岐阜大学地域協学センターの協力を得て、地域課題の解決に向けた企画を考える段階において学生を派遣していただくことにした。運営補助として参加している学生スタッフとあわせて、各グループに入ってもらい、塾生のアイデアや考え方について、地域のニーズや実現の可能性を視点を専門的な知見からアドバイスしていただくこととした。

本プログラムの出口として、当初は各地域に戻ってからの実践化を目指し、各自で地域貢献のための企画書を作成することを考えていた。しかし、企画書を作成して実践化につなげることは中学生には難しいこともあり、自分たちの企画提案を白川村関係者に発表することとした。

アクティブ・ラーニングの手法を取り入れるだけでなく、より効果的に力を付けることができるように、このプログラムでは、ゴールを明確にすること、一連の活動の流れを理解することで見通しをもつこと、様々なアプローチで考えたり取り組んだりできることなどの工夫をした。

(5) 地域リーダーに学ぶ

企画提案を行う前に「地域リーダーに学ぶ」プログラムを実施した。このプログラムの目的は、以下の2点である。

- ①地域のための取り組みや活動をしている方から、活動に対する願いや思いを聞くことにより、地域リーダーとしての意義や役割を理解する。
- ②各自が考えてきた企画について地域リーダーから助言してもらうことで、各自の企画を見直し、今後の企画提案に向けての見通しをもつ。

講師の選定にあたっては、白川村で地域のために活躍されている方、企画提案について適切な助言ができる方をお願いをすることにし、①については白川村での活動実績のある「地域おこし協力隊」の方、②については白川村役場の職員の方に依頼することとした。白川村役場の方については、それぞれのテーマに関係のある部署の職員の方に助言していただくこととした。

4. 「ぎふ立志リーダー養成塾」の実施

表2. プログラムの内容一覧 (出所：筆者作成)

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
8/15 (水)						オリエンテーション	昼食	開塾式	塾長講話	移動	「チームビルディング」	夕食	「グループワークとリーダーシップ」		一日のまとめ
8/16 (木)		朝礼	朝食	移動	「世界遺産を学ぶ」 講義、宿舎集落散策等	移動	昼食	「地域リーダーに学ぶ」	義務教育総括講話	「地域課題への企画提案」①	夕食	「地域課題への企画提案」②			一日のまとめ
8/17 (金)	朝礼	モーニングワーク	朝食		「地域課題への企画提案」③	昼食		「地域課題への企画提案」④	移動		夕食				3日間を振り返って
8/18 (土)		朝礼	朝食	移動	企画提案発表会	昼食	閉塾式								

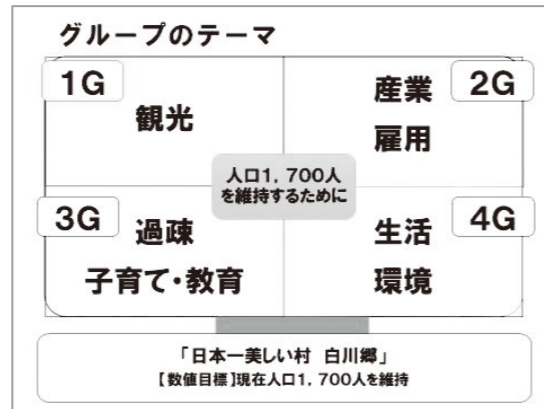


図1. 企画提案のテーマ (出所：筆者作成)

(1) 全体日程

リーダー養成塾の日程は表2のとおりである。対話的な活動を充実させるために、発表会を最終日にし、地域課題への企画提案に十分な時間(11時間)を確保した。

(2) 「地域リーダーに学ぶ」の実践

「地域リーダーに学ぶ」の流れと塾生の感想は以下のとおりである。

講師	活動内容
地域おこし協力隊 元隊員	1 講師(地域おこし隊)紹介 2 地域おこし協力隊の取組について(20分) 3 質疑応答(10分)
白川村役場職員 ・観光振興課 ・企業誘致対策課 ・教育長 ・村民課	1 白川村の現状と施策について説明(10分) 2 質疑応答(10分) 3 各自の企画について説明と職員の助言(一人7分程度) →①各自が企画を説明 ②職員から質問や気付いたことを話す ③さらに聞きたいことがあれば聞く ※職員には施策として可能かという視点でも助言してもらう。
【塾生の感想】	
<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーは何をするべきか、どんなリーダーでなければならないかを知ることができました。 ・役場の方は真剣に話を聞いてアドバイスをしてくださり、改めて白川村を良くしていきたいと思いました。 ・教育長さんの話では、やり取りをしながら聞くことができ、これからの活動に役立ちそうだと思います。 ・「自分事」として物事をとらえていかなければいけないと思いました。本当に白川村の人がどう思っているのか、何をしてほしいのかをとらえて企画していきたいと思いました。 	

リーダーとしての意義や役割を理解するとともに、事前学習で調べるだけではわからなかった白川村の現状や課題について理解することができた。特に企画提案を自分たちのやりたいことをやるのではなく、白川村の人たちの課題や思いを汲み取っていくことが大切であることに気付くことができた。このことは、白川村の地域リーダー、役場職員の方から直接話を聞くことができたことが大きいと考える。

(3) 「地域課題に対する企画提案」の実践

「地域課題に対する企画提案」は11時間で実施し、流れは図2のとおりである。限られた時間の中で実施するために配慮したことは、「ゴールを明確にする」ことである。具体的には、取組内容、取組方法と工夫点、企画による効果(メリット)・予想されるデメリットと対策について提案することを指導した。実際の取り組みにおいては、事前学習や白川村役場の職員にアドバイスしていただいたことをもとに現状把握や課題の明確化まではスムーズに行うことができた。しかし、実際に地域課題の解決に向けた企画を考えることは難しく、意見もなかなかまとまらないこともあり、内容を具体化するまでに時間がかかった。また「実現可能である企画」を意識しすぎたため、「パンフレットを作る」など現実的ではあるが、あまり魅力のない企画を考えるグループが多かった。そのため、夕日の美しさを売りにした「夕陽日本一宣言」や落ち葉を販売する「葉っぱビジネス」による町おこしの例を紹介

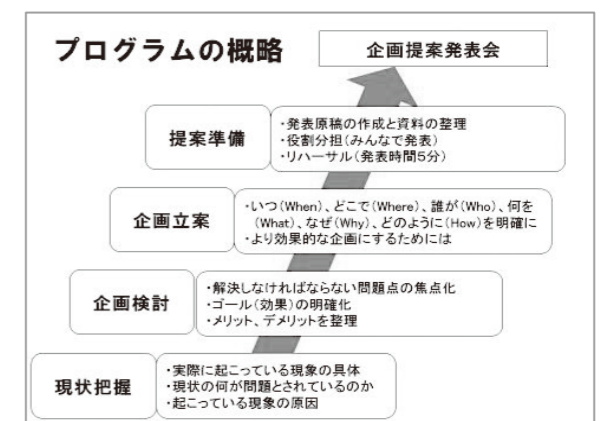


図2. 企画提案の流れ (出所：筆者作成)

し、中学生らしく柔軟な考え方ができるように話をした。

短い時間ではあったが、どのグループもよりよい企画提案にするために活発な議論を交わし、何度も企画を練り直すなどして主体的に取り組み、表3にあるような企画を考えることができた。

表3. テーマ（グループ）別の企画提案内容一覧（出所：筆者作成）

テーマ	企画内容	企画の詳細
観光 (1G)	・展望台の建設 ・白川ぶらりスタンプラリー	・世界遺産が見渡せる南部エリア（平瀬スキー場）に展望台を建設し、夜の白川郷も楽しむ。 ・観光名所に設置し、子どもや家族連れを対象に実施し、ポイントに応じて景品を贈呈。
産業・雇用 (2G)	・村内一貫生産プロジェクト ・白川村体験プロジェクト	・村内の木材を使用して家を作る。 ・観光地見学、稲作や養蚕等の体験をし、SNSで発信する。
過疎 子育て・教育 (3G)	・オリンピックを活用した宣伝 ・写真コンテスト ・アスレチックの設置	・オリンピック開会式で白川村PR動画放映。 ・宿泊ツアーの企画とPR。 ・白川村をPRするデザイン観光バスを活用。 ・「合掌造り、食、自然、誰も知らない白川村」などの部門ごとに写真コンテストを実施。 ・白川村の木を使用し、子どもたちが楽しみ、自然を体で感じるアスレチックを設置。
生活・環境 (4G)	・ふきかえ祭り in 白川	・合掌造りの屋根のふきかえをイベント化し、観光客にも体験をしてもらう。 ・和傘や提灯を使ったライトアップも行う。

(4) 「地域課題に対する企画提案発表会」の実践

発表会には白川村立白川郷学園水川和彦校長先生をはじめ、塾生の所属中学校長、青少年育成推進指導員、白川郷学園の生徒に参加いただき、助言等していただいた。発表方法はタブレットを使用したプレゼンテーションが多く、中には寸劇を取り入れたグループもあり、グループごとに工夫した発表をすることができた。参加者の感想は以下のとおりである。

- ・地域の課題を的確にとらえ、ゴールが明確なプレゼンであり、わかりやすい発表であった。
- ・山を生かし、林業を活性化させるという提案がよい。
- ・オリンピックやバスなど、豊かな発想にあふれた提案だった。
- ・ふきかえ祭りという大きな一つの企画を立ててそこから深めていったため、わかりやすいプレゼンになったと思います。
- ・観光よりも子育て・教育の環境のすばらしさをPRすると、もっと白川村に住みたいという人が増えるのでは。
- ・写真コンテストも面白そうだが、参加するメリットは？



図3. 企画提案発表会の様子

企画の発想や発表の仕方について肯定的な意見も多くいただいたが、ゴールの明確化や実現の可能性、実施する際のメリット等についても助言していただいた。今後の事後活動につなげていくためにも、自分の願いや思いだけでなく、実態や課題、周りの状況等を考慮して活動を仕組むことが大切であることを学ぶことができた。以下は塾生の感想である。

- ・物事への考え方やとらえ方が変わりました。一つだけで結論を出すのではなく、広い視野で物事を見て考えを深め、自分の考えをもつことが大切だと思いました。
- ・相手が本当に必要としているのか、他人事ではなく自分事としてとらえてチームの子たちと考える中で、どの視点で考えればよいのかということを知りました。

5. 事後活動に向けた事例の送付

リーダー養成塾で学んだことを学校や地域での活動につなげていくために、参加した塾生と中学校に「事後活動の事例」を送付した（図4）。学校や地域のリーダーとして主体的に活動に取り組むことを期待したいが、実際は学校も忙しく、生徒や先生方が事後活動を考えることは負担となる。そのため、できるだけ具体的な事例を紹介して、即実践につなげられるようにした。事例として、企画提案の流れを生かした「学校課題に対する企画提案」や「地域に対しての提案、地域との共同活動、地域への発信」等について具体的な活動を紹介した。

地域に対して取り組んでみよう！
提案する ・こんな地域にしたらどうだろう。 ・中学生と地域の方でこんなことができそうだ。 ・地域の方にも協力をお願いしたい。 <small>※コミュニティ・スクール、まちづくり協議会などで提案しよう。</small>
共に活動する ・校区の夏祭り、運動会、敬老会、文化祭等の運営補助 ・ゴミゼロ運動、資源回収、地域行事に参加 ・青少年育成市・町・村民会議が主催する行事への参加 <small>※地域の自治会や青少年市・町・村民会議に聞いてみよう。</small>
発信する ・体育大会、文化祭、合唱コンクール等、学校や学級の行事への案内状を作成し、地域に配布をする。 ・生徒会便りや学校便り（生徒が作成）を地域に配布し、学校の様子を知ってもらう。

図4. 活動事例（出所：筆者作成）

6. まとめ

(1) 成果

- ・「白川村」を共通のテーマにして、事前に各グループのテーマを設定し、事前学習をして企画提案に臨むことで、調査や話し合いが焦点化され、スムーズに取り組むことができた。
- ・白川村で活躍するリーダーや職員の方から具体的な現状や課題、活動に対する思い等を聞くことにより、白川村を自分の地域のように考え、白川村の人に対して必要な企画提案をしようとする気持ちをもって取り組むことができ、より地域のことについて理解を深めることの必要性や、様々な視点で企画提案をしていくことが必要であることを学ぶことができた。
- ・企画提案において大学生からアドバイスをさせていただくことにより、現状や課題との整合性や実現可能かどうかの視点を踏まえて、企画提案することの必要性を学ぶことができた。
- ・アクティブ・ラーニングの手法を用いたプログラムの実施により、主体的かつ対話的な活動が充実し、企画提案をやり遂げた充実感や満足感を味わうことや、新たな見方や考え方ができたと感じた塾生が多く、深い学びにつながったと考える。

(2) 課題

- ・企画提案に取り組む中で、「白川村の方の思いをもっと知りたい」と意見が多くあった。データや資料から把握できる事実や地域の少数の方の意見だけでなく、多くの地域の方の思いやニーズを知った上で考えたいということであった。現在の日程ではなかなか難しいが、できるだけ多くの白川村の方から直接話を聞くことは可能かどうか検討の余地がある。
- ・事後活動につなげるための事例について、今回は配付のみ行った。リーダー養成塾で付けた力を活用してどのように事後活動につながったかについての調査は未実施のため、今後は追跡調査についても検討する必要がある。
- ・リーダー養成塾のプログラムを多くの教育現場や社会教育の場で活用していただくための周知の展開や方法の検討をする必要がある。

(注)

- 1) 岐阜県における教育改革に関する諸課題について調査・検討し、政策提言等を行うため平成14年11月15日に設置。
- 2) 現在、実行委員会は解散しており、岐阜県が主催。

岐阜県環境生活部私学振興・青少年課（〒500-8570 岐阜市藪田南2-1-1）